2007年6月

水無月（みなづき）：暑さで水が不足する「水無し月」、みんなで田植えをやり終えた「皆仕尽（みなしつき）」などが語源

住まいの瓦版

株式会社　鈴木住研

TEL 0424-24-1449
FAX 0424-24-1446
Mail vaio4492@jcom.home.ne.jp

諺（ことわざ）　忘年（ぼうねん）の交（まじ）わり・・・年の差を忘れた交わり。年齢の差を気にしないで、親しく交われる友人のこと。「忘年の友」とも言う。

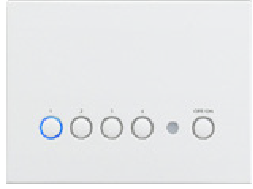
世界遺産

【ロベン島】

ロベン島(ロベンはアザラシの意味)は１９９９年、ユネスコ世界遺産(文化遺産)に登録されました。南アフリカ共和国のケープタウンから約１２ｋｍの沖合いに浮かぶ小さな島です。島の周囲は海流が強く、脱出が困難なところを見出され、島の大部分は刑務所として使われ、南アフリカ共和国のネルソン・マンデラ前大統領が投獄されていた“監獄島”として知られています。１７世紀にオランダ殖民政府が流刑地としたのが始まりといわれ、犯罪人やハンセン病患者などを隔離して幽閉する施設として、３世紀半の間、負の歴史を歩んできました。特に２０世紀半ばからは、アパルトヘイト(人種隔離)政策に反対する多くの政治犯を収監する刑務所となりました。上述のようにマンデラ氏“南アフリカ共和国の黒人解放運動指導者。反アパレルヘイト運動により反逆罪として逮捕され２６年間刑務所に収容された。釈放後、アフリカ民族会議の副議長に就任。その後、議長。デクラークと共にアパルトヘイトを撤廃する方向へと南アフリカを導き１９９４年に大統領に就任。民族和解・協調政策を進め、経済政策として復興開発計画を実施した。１９９９年に行われた総選挙を機に政界から引退した。現在ユネスコ親善大使に就任している。”もこの島へ送られていました。長い戦いの中で政治情勢は変化し、１９９１年に釈放されたマンデラ氏が１９９４年には大統領に就任し、アパルトヘイト撤廃により、ロベン島は、監獄島としての歴史を終え、圧政と人権差別に対する民主主義と自由の勝利の目撃者となったのです。島の自然も内容が豊富で、原産の植物がとりわけ美しく、またジャッカスペンギンはその数を急速に増加させています。１９９７年１月、この島は芸術・科学・文化・技術省の管轄となり、島全体が博物館に指定され、平和な時を刻みはじめています。

松下電工　お好みのあかるさをワンタッチで呼び出せる、記憶ライトコントロール「リビングライコン」

暮らしのシーンに合わせたあかり演出が簡単な操作で楽しめる、住宅向け記憶式ライトコントロール「リビングライコン」が発売されます。シンプル＆フラットなデザインで、パネルカラーはインテリアに合わせて選べる「ホワイト」と「シルバー」をラインナップ。複数の照明器具の明るさをひとつのパネル上で調節できるとともに、好みのあかりの状態を記憶して、ワンタッチで呼び出すことができるので、一室複数灯で構成されたあかりのコントロールに最適です。均等で明るいだけのあかりから、陰翳の美しさを楽しみ、魅了する住空間を創造します。



ホワイト

シルバー

価格：36,750円～77,700円

おうちを復活させる裏技

電子レンジの中のニオイは・・・

みかんの皮をちぎって入れチン！すると、中にこもっていたニオイは気にならなくなります。

電気ポット内側の水垢は・・・

茶色い輪じみの水垢が付着したら、ポットに水を張り、コップ半分くらいのお酢を入れて沸騰。沸騰したら電源を切り、さらに半カップのお酢を入れて1時間放。最後に水でよくすすぎましょう。
ちなみにヤカンも上記の要領でキレイになります。

☞6月のお手入れのポイント☜

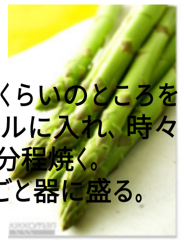
湿気とカビ対策・・・換気に気を配り、室内に湿気がこもらないようにします。この季節は食中毒の心配もありますので冷蔵庫の掃除も忘れずに。

☆グリーンアスパラガス☆

グリーンアスパラガスの旬は5～7月。たんぱく質が比較的多く、新陳代謝を活発にし、体力回復、美肌に効果があるアスパラギンを含んでいます。カロテン、ビタミンB2、食物繊維も豊富。太くまっすぐ伸び、穂先が固くしまっているものを選びましょう。冷蔵庫で穂先を上にして立てて保存すると長持ちします。

簡単レシピ　～グリーンアスパラガスの焼き浸し～

☆グリーンアスパラガス	8～9本
(A)	
☆水	1／2カップ
本つゆ	1／4カップ
しょうが（絞り汁）	少々

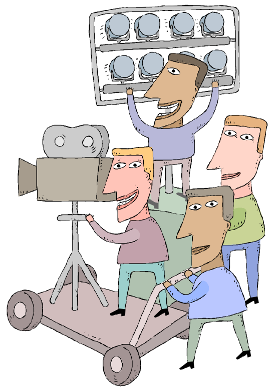


1. (A)はバットなどに合わせておく。
2. グリーンアスパラガスは根元3cmくらいのところを折り、食べやすい長さに切ってグリルに入れ、時々返しながらやや焦げ目がつくまで8分程焼く。
3. 焼きあがってすぐに(1)に浸し、汁ごと器に盛る。

字幕の字数ってどうやって決めるの？

外国映画に字幕を入れる場合。どのようなルールがあって字幕の字数が決められるのでしょう。その答えは、わが国の字幕の歴史を紐解くとわかります。昭和初期、映画がサイレントからトーキーになるとき、翻訳の必要性が生じました。当時、日本には字幕を入れる確かな技術がなかったため、字幕翻訳の草分け的存在、清水俊二氏と田村幸彦氏が、パラマウント映画の字幕製作部員として昭和６年頃にニューヨークに派遣されます。

田村氏はすでに、日本の字幕作品第１号『モロッコ』を手がけた経験がありますが、まだ暗中模索で字数などの明確なルールはありませんでした。そこで２人は字幕のルールをつくろうと、映画会社の試写室で字幕入れのカット＆トライを繰り返しました。ここで発見したのが、観客が画面を楽しみながら読める字幕の文字量は、「フィルムが１フィート動く間に３文字」というルールです。フィルムは１．５フィート／秒で回りますから、秒で換算すると１秒４．５文字となります。これが現在も通用している業界のルールとなり、原語のセリフ１秒に対し字幕は４文字となっています。ちなみにＮＨＫのオンエアでの字幕の字数制限は、視聴者が高齢である場合も考慮して、１秒３文字とされています。



ハウジング用語　［**鏡面仕上げ**］　表面をピカピカに磨き上げ、光沢を出す仕上げのこと。